

タヒチヌイトラベル発 TAHITI NUI TRAVEL タヒチプチ情報

2011年06月4日発信

イアオラナ！現地旅行社タヒチヌイトラベルが発信する、タヒチのプチ情報です。

みなさま、こんにちは！ スタッフAです。
日本は梅雨入りしましたが、いかがお過ごしでしょうか？
今日は夏の星座の代表格、さそり座のご紹介です。

さそり座は、真っ赤な一等星アンタレスを中心にゆるやかにS字カーブを描く、88星座の中でも最も見つけやすい星座です。
もちろん、日本からでも南の方角に見えます。



さて、ポリネシアには独自の星座というものがありません。が、このさそり座だけは別です。
よく形を見て下さい。
この形、釣針に似ていませんか？
ポリネシアでは「マウイの釣針」と呼ばれる星座、それがさそり座です。

マウイは、ポリネシアの八百万の神々の中でも特に人気のある神様で、時間と空間を司る神として崇められました。

マウイ神は、釣針「マナイ・ア・カラニ（天国の釣針）」を使って、海中からポリネシアの島々を釣り上げました。
ところが釣り上げた島々はどれも小さかったので、兄弟神に舟を漕いでもらい、巨大魚ピモエを釣り上げようと決意しました。ピモエは島に姿を変えることが出来る魚で、ピモエを釣り上げて、小さい島々をつなげて一つの大陸を作ろうとしたのです。

兄弟神は海の一番深い場所へ舟を進め、マウイはピモエに釣針をかけた。
ピモエは釣り上げられまいと暴れました。マウイも格闘します。

2日2晩かかって、やっとピモエはおとなしくなりました。

ピモエを釣針にかけたまま島々へ帰る途中、マウイは兄弟神に、何があってもピモエを見てはいけないといいつけましたが、兄弟神はピモエを見てしまいます。

その瞬間、ピモエは固まって島になってしまいました。

そしてマナイ・ア・カラニはピモエから外れて、天高くまで飛ばされてしまいました。

その釣針が星となってさそり座となり、ピモエの背中がタヒチ島、尾びれがモーレア島になったということです。

そして、島々が一つの大陸になることはありませんでした。

島々を作った偉大なるマウイ神は今日、ポリネシア北端のハワイ諸島のひとつにその名を留めています。

ポリネシアの神話、いかがでしたでしょうか？

今の時期は21時頃からさそり座が見えますので、南十字星と一緒に探してみてください。

タヒチ島からさそり座が見える時期

1月頃 明け方に南東の空に現れる（早起きすれば見られる）

11月頃 夕暮れに南西の空に沈んで行く（夕食前に見られる）